

本部員大衆に本部の方針を浸透せしめよう努力すること。

(四) 対外的にも各支持団体の働きかけ、いよいよも党員たる者が党本部、党支部、支隊に向つてわれ等と同様の態度を現示し行動するよう努力すること。並に来る十四日、十五日には組合員たる党中央執行委員、中央委員も合同絶対反対の同歩調を執る前に充分に努力すること。

以上は勿論、急速としかもあくまで地上に於ては如何なるものか。何故なり、今やわが会衆に向つても合同主張派の憎むべき一味の策動が党中央執行委員、中央委員会を目前に迫り、死にもの狂ひに誘はれてゐるから。

彼等が最近、その出張地に於て又は力年筆に於て如何なる魔術を地方幹部に施してゐるか大衆の面前に曝け出し大衆の在力に於て党中央執行委員、中央委員を動かすことが肝要である。

(1) 一味は此の再建会衆を再び混乱せしめようとしやうといふ。会組員大衆の願望を利用して、党農村委員会を通じて四五の全農果農の幹部を

偽瞞し煽動し、積極的賛成論を打ち出し、それによつて、全国朝に支持されてゐる積極的反対論を抑へつゝそれの代りに消極的賛成論(註)を強制せんとし力があるが、彼等によつて果外を本部の決議、態度に根拠し、一味を走らして、本部は反対が地方は大体賛成だから賛成に同意せしめられが出来るわけは合同には意志表示をしない、と云と釋し倒してゐる。

(註) 去年の合同運動(天衆、果農、果同)は農民組合中心(我々)といふのは全農再建(あるが一味はもはやい)は全農の指導権とそれを通じてこの党の指導権が目標)の合同であったから全農がイニシアチブを握つて、今年の合同は党の組合中心(党の組合戦線統一、一味はもはやい)といふが、国際労働会議を支持する要結成、労働クラブ問題、フルジラの解決とその功績による合同敵の指導権が目標)であるから、全農や合同同盟、海員組合と委せて全農は消極的積極的進歩的といふ意見、これこそ最悪の日和見主義、組合主義である。大衆改革是論論者